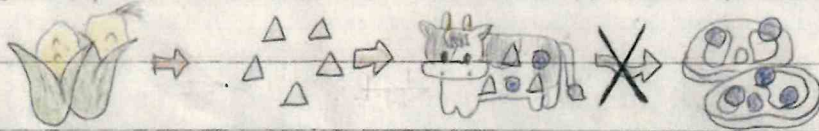


テーマ: 食品の遺伝子組み換えトウモロコシ

日本で食品として安全性が確認されている遺伝子組み換え作物には、トウモロコシ、大豆、小麦、アズキ、サトウキビ、ジャガイモ、パパイヤなどがあります。国内で流通している遺伝子組み換え飼料は全てこれらの可能性がないことをあらかじめ確認しています。



- ★新たに有害物質が生成され、肉・乳・卵等の畜産物中に移行する可能性
- ★遺伝子組み換えに由来する成分が畜産物中で有害物質に変換・蓄積される可能性
- ★遺伝子組み換えに由来する成分が家畜の代謝系に作用し、新たな有害物質を産生する可能性



組換え飼料 組換え成分 代謝系作用 新たな有害物質

トウモロコシには約5万個の遺伝子が含まれています。遺伝子組み換えツールの出現は、従来型の育種では困難であり、特定の遺伝子の付加による新たな形質の開発を可能にし、シーズンを通じて害虫による被害を防いだり、特定の除草剤に対する高い耐性をもたせたりとができるようになりました。例えば、一般的な土壌バクテリアであるバチルス・チューリンゲンシスの遺伝子を利用して、殺虫タンパク質が付加され、別のバクテリア遺伝子の利用により、2,4-Dやグリホサートのような除草剤への耐性がもたせられています。これらの遺伝子を組み込むことにより、潜在的なトウモロコシの高収量性を引き出すとができるのです。害虫抵抗性のトウモロコシは、農薬をまかなくても害虫の繁殖を抑えることができるため、収穫量も多くなります。

<感想>

遺伝子組み換え技術によって、除草剤に対する高い耐性をもたせたトウモロコシを多く収穫できることで、トウモロコシが沢山食べられるのはいいなと思いました。またトウモロコシは夏バテにも効果的なので、夏野菜として夏バテ対策にもからて沢山食べられて、すくいいなと思いました。